

空港島が漁業に与える影響

1. アサリ

鬼崎・常滑:アオサの堆積・底質悪化:A
小鈴谷:稚貝生育不良:B

2. ノリ

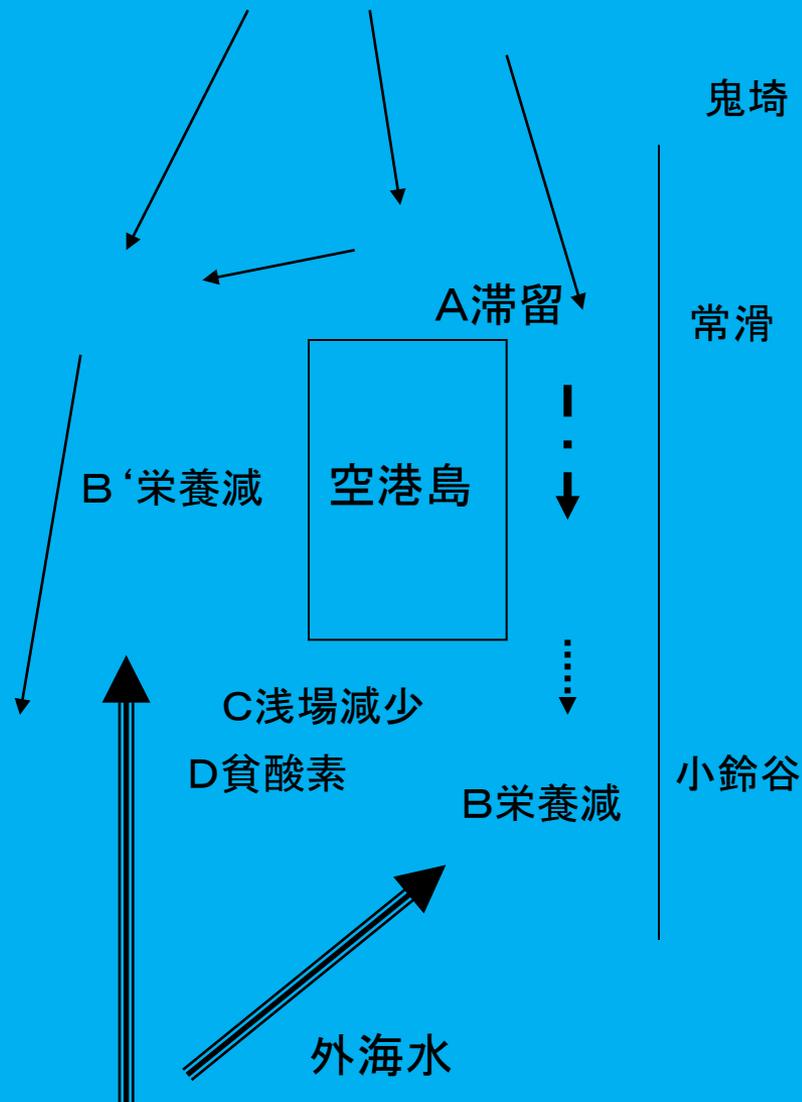
鬼崎:潮流の弱まりで不良ノリ増加:A
小鈴谷:栄養減少で不良:B

3. カレイ類

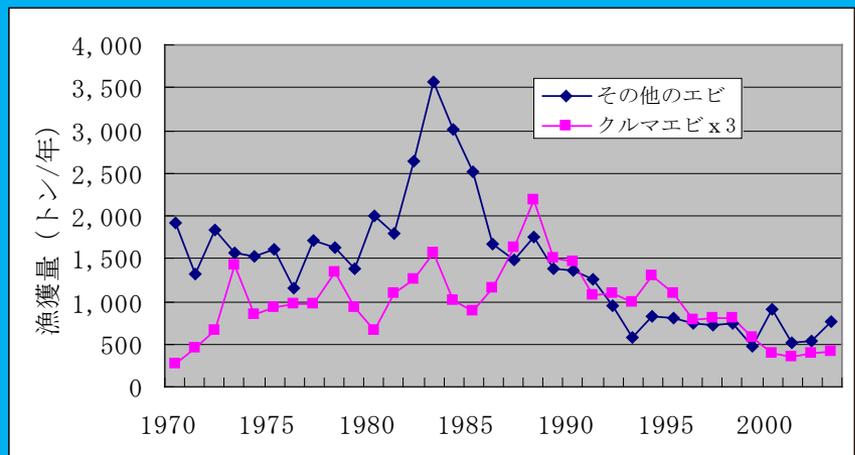
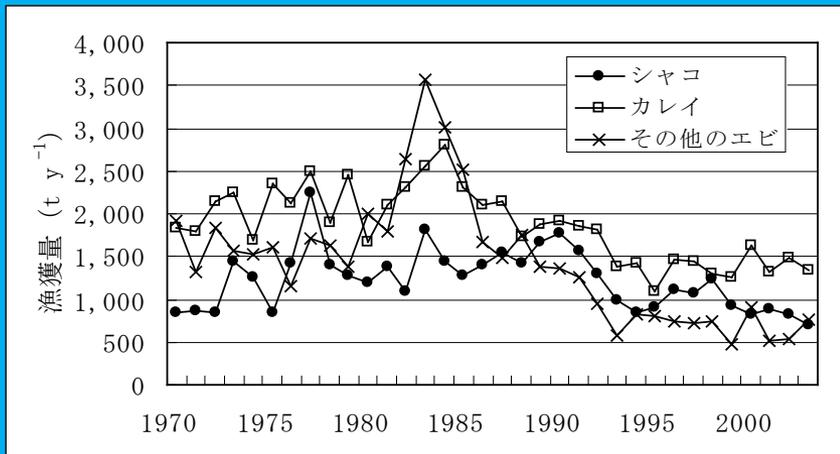
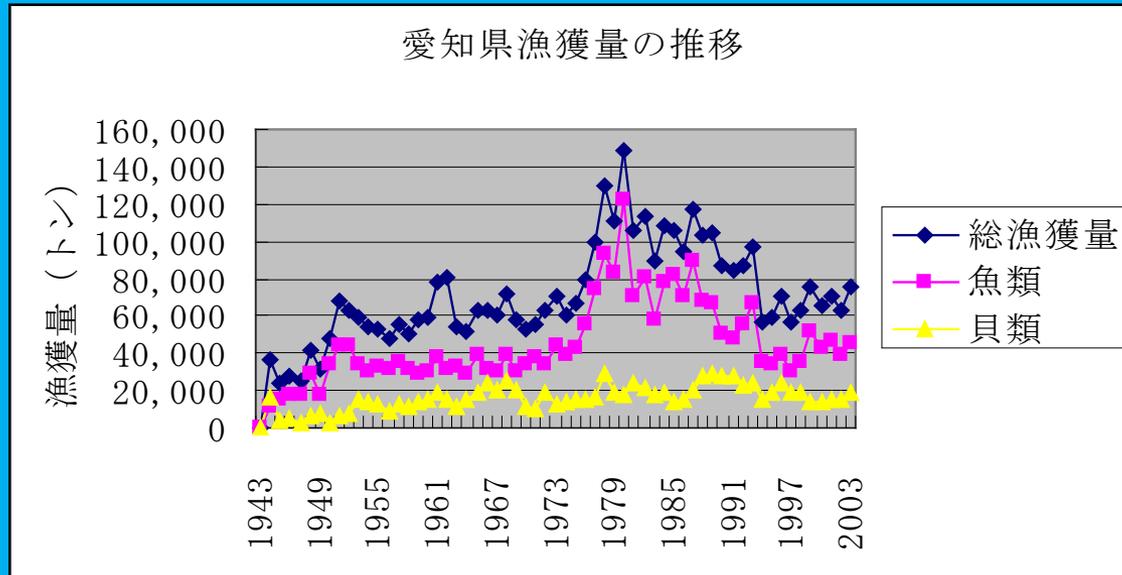
マコカレイ:1~2年後に影響:産卵場が失われた:C
イシガレイ:すぐに減少:生育場の減少と貧酸素:C&D

4. カタクチイワシ

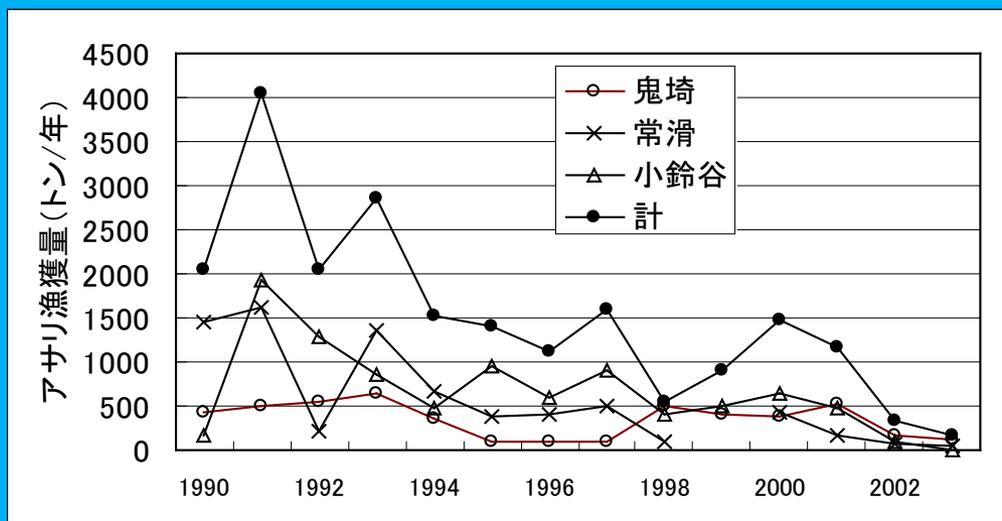
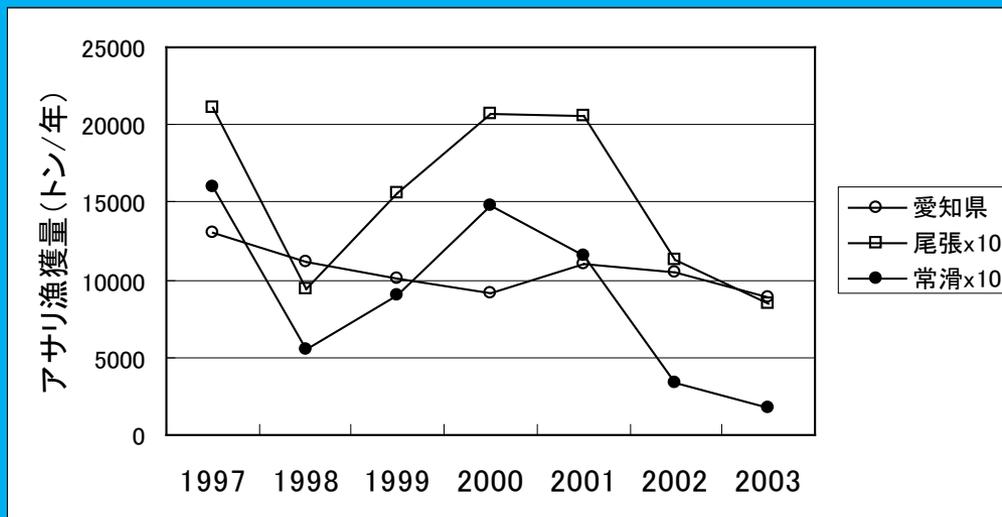
空港島西側域だけ減少:木曾三川からの水が空港島の影響で西に偏り、空港島の西側で栄養塩が減少→植物プランクトンが減少→動物プランクトンが減少→カタクチイワシが減少:B'



愛知県の漁獲量は1970年代の漁獲量を維持していて、それほど問題ないように見えるが、個々の魚種を見ると(とくに底生のもの)問題がある。

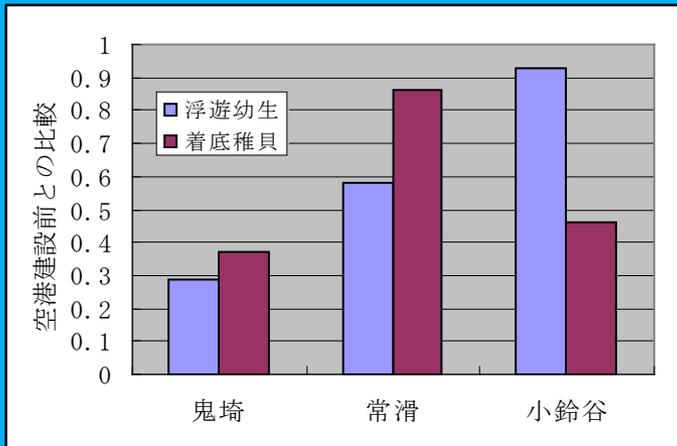


アサリ:愛知県全体では変化がないが、常滑海域(鬼埼・常滑・小鈴谷)で減少している



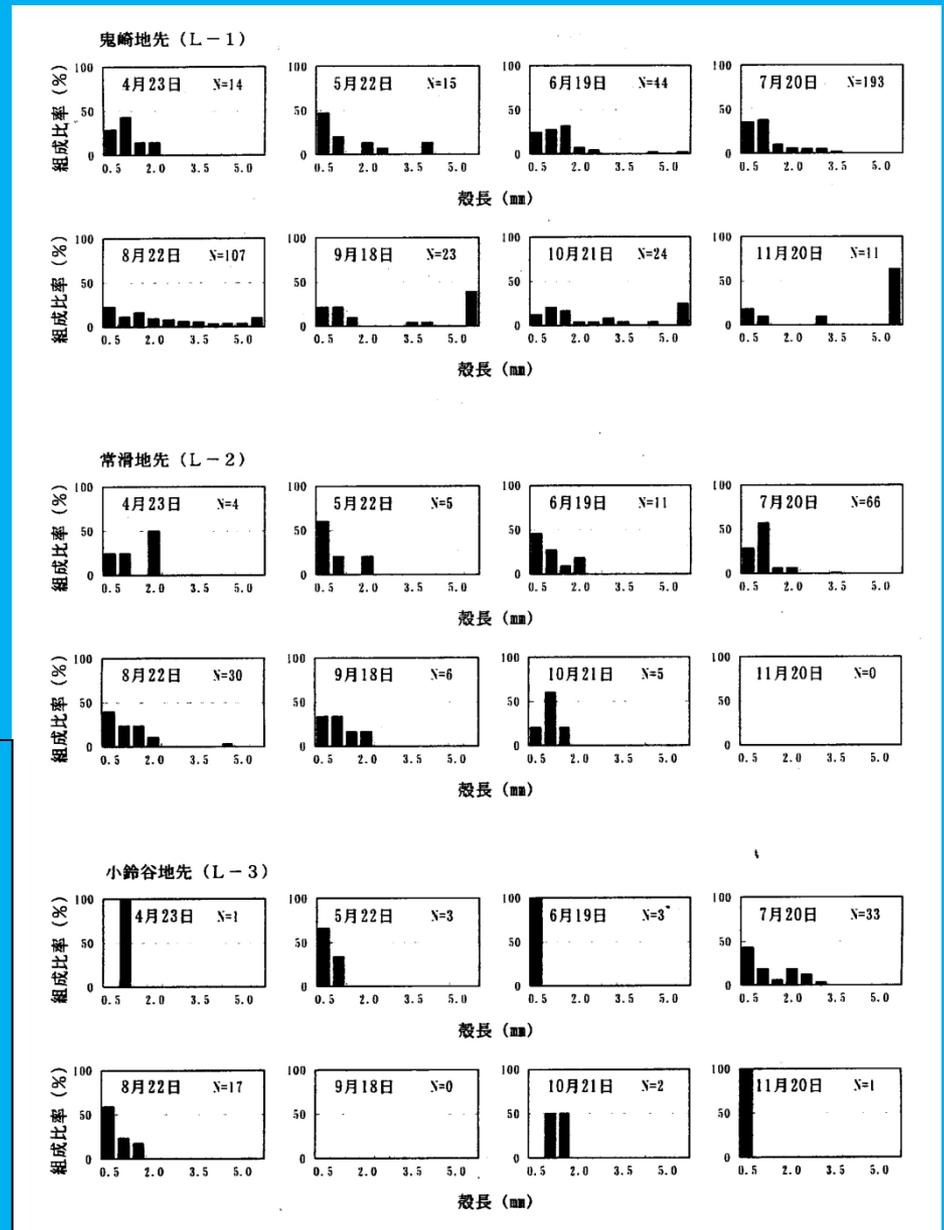
アサリの成長

浮遊幼生 → 着底稚貝 → 成貝



空港建設前と比べて、常滑と小鈴谷の浮遊幼生と着底稚貝密度は比較的よいが、成貝は少ない。

鬼崎ではある程度アサリは成長、しかし常滑と小鈴谷ではほとんど成長せず鬼崎の底質はシルトが多く、嫌氣的アオサの堆積の影響、アサリの餌はあるが、環境が還元的常滑と小鈴谷の底質はシルトが少ない。餌の植物プランクトンが少なく、稚貝が成長できなかったと推定される。



ノリ

小鈴谷で大きく減少した。原因として、1) 栄養塩の減少、2) 潮流の弱まり、が上げられている。栄養は北側の河川水から供給されるので、空港島により遮蔽されて供給が少なくなった。潮流の弱まりは、ノリへの栄養供給を弱めた。

カレイ類

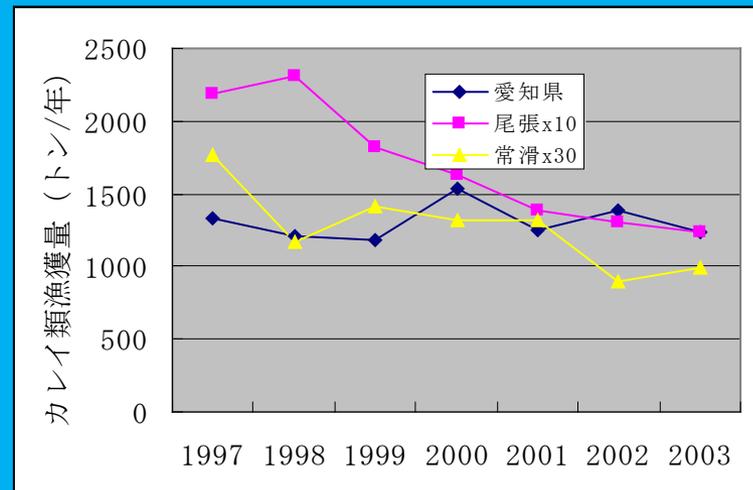
愛知県全体では変化が見られない。

尾張と常滑で減少、常滑では2002年から減少

調査船調査で、マコガレイが空港周辺および伊勢湾全域で減少。工事開始の2000年生まれのものが漁獲される2002年から減少している。湾内の水深10m前後の砂泥域で産卵・成育するので、空港島により産卵場・成育場の消失によりマコガレイが減少したと推定。

イシガレイは、水深30m以浅で産卵、仔魚は10m以浅に着底、稚魚は5m以浅で成育するため、空港島建設により直接的な被害を受けると推定。

マコガレイとイシガレイは貧酸素の影響も受ける可能性もある。

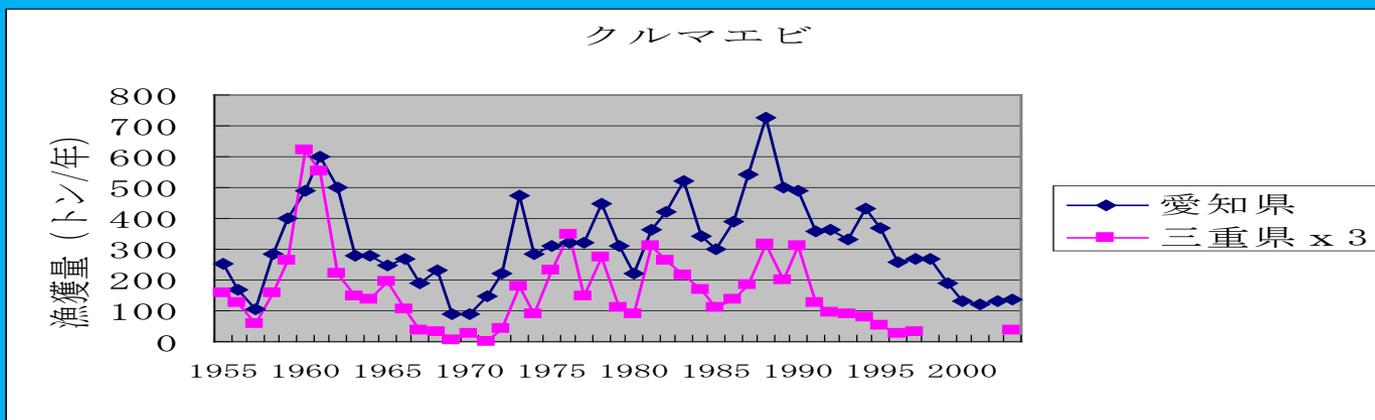
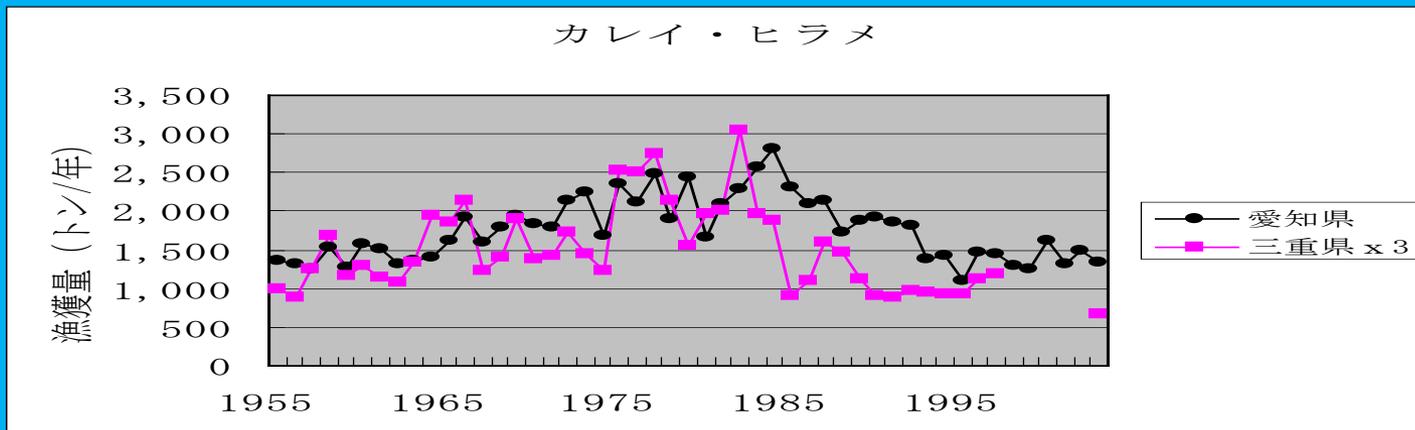


今後、監視していかなければならない問題

1. 底生の魚介類の消長

2. 三重県側の問題(栄養塩類が三重県側による)

(カレイやクルマエビは三重県側で最近減少、これは空港島が関係しているのか、2000年の東海豪雨が関係しているのか、まだ?)



空港島が漁業に与える影響

1. アサリ

鬼崎・常滑:アオサの堆積・底質悪化:A
小鈴谷:稚貝生育不良:B

2. ノリ

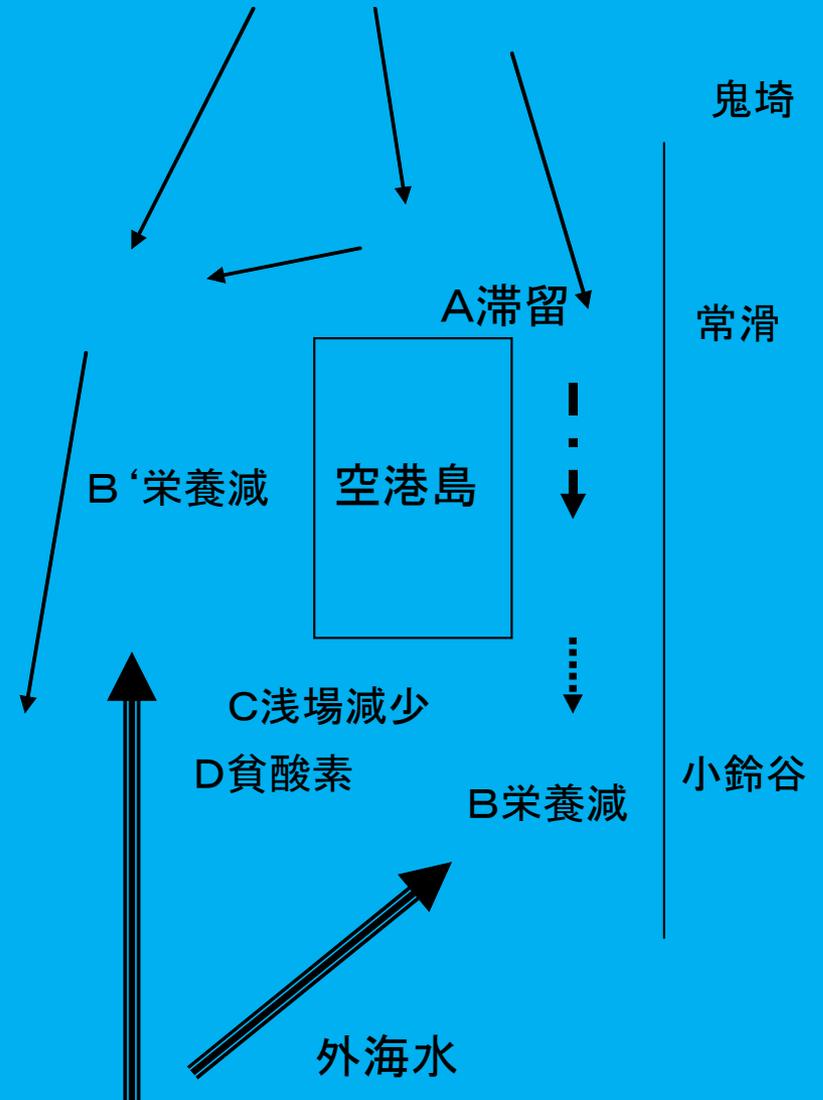
鬼崎:潮流の弱まりで不良ノリ増加:A
小鈴谷:栄養減少で不良:B

3. カレイ類

マコカレイ:1~2年後に影響:産卵場が失われた:C
イシガレイ:すぐに減少:生育場の減少と貧酸素:C&D

4. カタクチイワシ

空港島西側域だけ減少:木曾三川からの水が空港島の影響で西に偏り、空港島の西側で栄養塩が減少? 植物プランクトンが減少? 動物プランクトンが減少? カタクチイワシが減少:B'



カタクチイワシ

伊勢湾全体のカタクチイワシは減少していないが、空港島周辺のものは減少した。一方、空港島周辺の動物プランクトンも減少した。

愛知県は、空港島周辺のカタクチイワシの減少は、この時期の魚が索餌回遊であり動物プランクトンが少ないことがカタクチイワシが少ない原因と考えた。また、空港島周辺では、空港島建設以降塩分が比較的高く、沖合い性の魚種も見られたと述べているが、工事との関連は不明としている。

おそらく、湾奥からの河川水を含む水が空港島にぶつかり、西偏して三重県側に寄って、そのために外海水系の水が空港島西側および南側に入ってくることが考えられ、その結果植物プランクトンが減少し、それに伴い動物プランクトンも減少したと推論できる。